

学 習 指 導 案

		学科	機械工学科		
科目名	機械工作	日時	○月○日(○)	使用教科書	機械工作2/実教出版
領域の内容	生産計画・管理と生産の効率化			単元計画	2時間中の1時間目
単元	安全の管理			学年	機械工学科群 1年
単元の目標 (生徒の目指す姿)	(1) 安全に行動するためには、危険を予知することが大切であることを理解する。 (2) 身近に潜んでいる危険に対してどのような対策を取るべきか考える。 (3) 安全のための行動目標を実践する。				
授業に必要な用具など	教科書、ワークシート、タブレット、付箋				
評価の観点	【a】知識・技術		【b】思考・判断・表現		【c】主体的に学習に取り組む態度
	・労働災害を把握し、安全を実現する方策と進めかたを理解している。		・安全の管理の目的と効果および方法を発言、発表することができる。		・安全に関心を持ち、それを実現する方策などを理解しようとしている。
時間	学習内容及び学習活動		評価の観点と方法		指導
導入 5分	本時の目標を理解する。				身の回りにおける危険性について考え、工業生産における安全について学ぶことを本時の目標で確認する。
	本時の目標： 身近に潜む危険を予測し、普段の生活で安全な生活を送るためには、どのような対策を取ればよいかみんなで考えよう。				
展開 40分	「グループワーク①」 【校内の実習室の危険個所の整理を行う。】 ①実習室の危険個所が撮影された写真(事前にタブレットで撮影)をグループ(4人1班)の仲間に提示する。 ②グループ全員で実習室の危険箇所、どんな危険性があるかを共有する。		○評価基準 【c】自ら考え、グループ活動に積極的に取り組んでいるか。 〈評価方法〉 行動観察		活発な意見交換と多角的な意見が出るように支援する。 危険だと感じていなかった場所にも危険が潜んでいることを理解させる。 適宜、付箋を利用する。
	「グループワーク②」 【危険をどうすれば回避することができるか。】 ①グループ全員で実習室の危険箇所をどのように対策すれば危険を回避できるか話し合う。		○評価基準 【b】安全の管理の目的と効果および方法を理解できているか。 〈評価方法〉 行動観察		予測した危険性に対して、それらを回避する方法を考えさせる。ひとり必ず一回は発言するようにする。
	「代表グループによる発表」 ①危険箇所、どのような危険が伴うか、どのように危険を回避するか、クラス全体に発表する。				一つの重大事故の背景には、29の軽傷を伴う事故があり、その下には300もの「ヒヤリハット」した経験があるというハインリッヒの法則について説明する。
まとめ 5分	○本時の授業の学習のまとめを自分の言葉でノートに記入する。 ○数人の生徒に発表を促す。				安全に対する意識をこれからの実習や生活で生かすことを確認する。 リスク低減のためにはリスクコミュニケーションが大切であることを確認する。